

一般社団法人宮城県損害含む「仙台中央」「仙台書保代理業協会(宮城北)」「仙台東」「仙台南代協)は会員数250名(正会員231名、一般会員19名)で、9支部で構成されている。北から、東日本大震災による津波と火災で壊滅的な打撃を受けた気仙沼市や南三陸町の「気仙沼支部」、平成20年の「岩手・宮城内陸地震」で山並の形が変わった栗原市・大崎市などの「古川支部」、やはり、東日本大震災の津波で甚大な被害を受けた石巻市・東松島市・女川町などの「石巻支部」、日本三景の松島や塩釜市、多賀城などの「仙塩支部」がある。仙台市内には津波で街並みが無くなった閑上地区のある名取市を

宮城代協 介護施設の車いす清掃

る白石市、山形県と境を接する蔵王連峰のふもと蔵王町・七ヶ宿町など海あり山ありの地域で活動している。平成23年3月11日に発生した東日本大震災では宮城代協の会員のほとんど

車いすを隅々まで清掃

ムシ交換や空気入れなども

どが何らかの被害を受けた。今回の震災で改めて地震保険の大切さを痛感した我々は、以前にも増して積極的に地震保険の啓発・普及に努めた。その結果、宮城県は平成24年度末で83・5%という

全国一の付帯率となつている(出典・損害保険料率算出機構)。仙南支部での社会貢献活動は、さくら名所百選の地「一目千本桜」で有名な白石川沿いの清掃活動などをしてきたが、継

を得ることができた。平成24年12月22日(土)に、仙南支部の会員13名が施設のホールにブルーシートを敷き詰め、その上で車いすをバラして隅々までホコリや汚れを取った。また、車輪の軸受け部にはグリースを塗ったり、タイヤのムシ交換や空気入れなど、みっちり2時間30分作業した。当日は、年の瀬も押し詰まった時期でありながら、支部会員の3分の1以上のメンバーが集まり、ボランティア活動に汗を流すことが出来たことは、仙南支部の団結力の賜物と自負している。その後、ホームの職員の方から「今まで、いろいろなボランティアを受けてきたが、車いすの清掃は初めてであった。今後もお願ひしたい」との有難い言葉をいただいた。



施設の皆さんと記念写真



車いすを隅々まできれいに

な先生でありながら、新春セミナーの内容は実に面白くかつ充実した内容で、聴衆を一切飽きさせることなく、アツという間の2時間、講演していただいた。今後他他の老人ホームも含めて車いす清掃活動を毎年実施することも、他団体ともタイアップした新たな支援活動も考えていきたい。

(執筆 杉下浩明理 事・仙南支部長)

日本代協 地域貢献活動リポート

<17>